

図 6-57 同じ話や不快な音

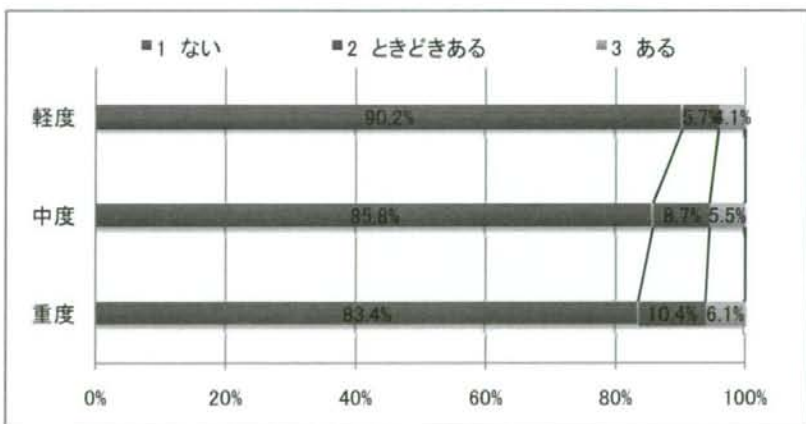


図 6-58 大声を出す

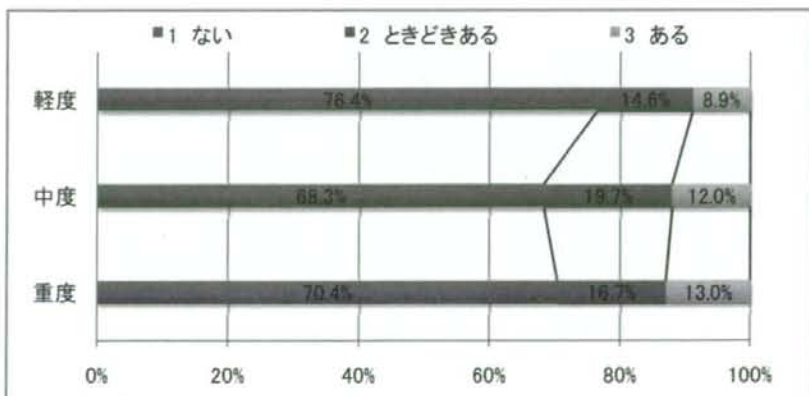


図 6-59 介護に抵抗

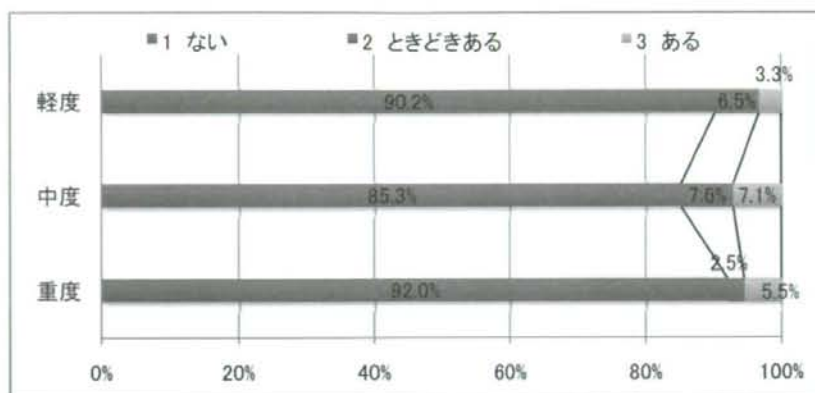


図 6-60 目的無く動き回る

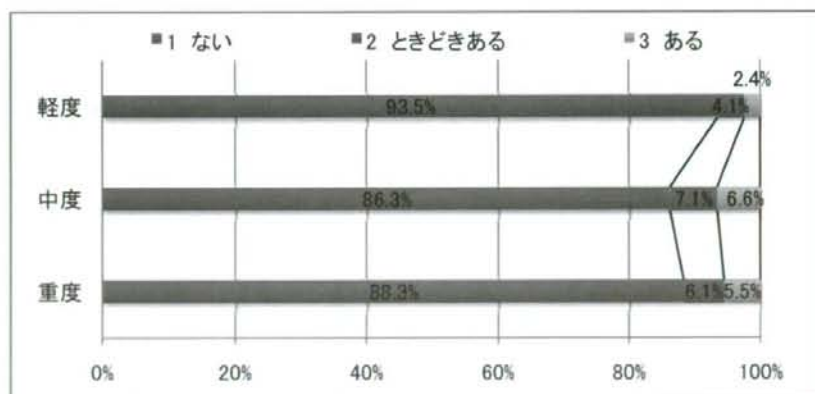


図 6-61 落ち着きが無い

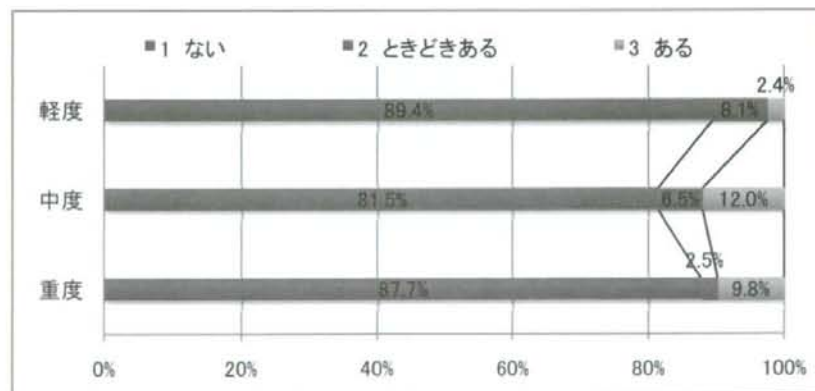


図 6-62 一人で戻れない

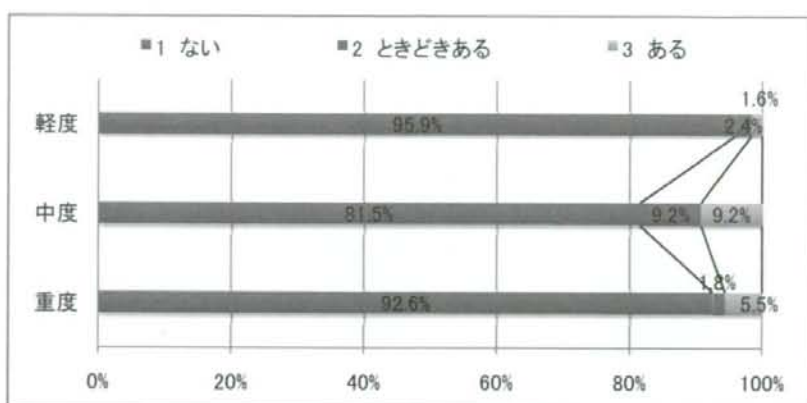


図 6-63 目が離せない

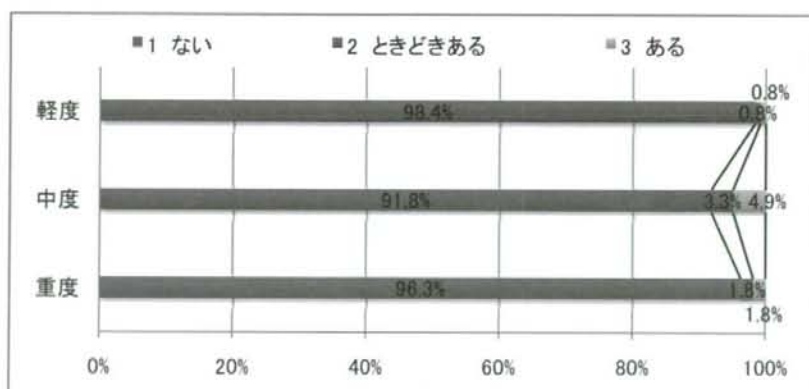


図 6-64 無断で収集

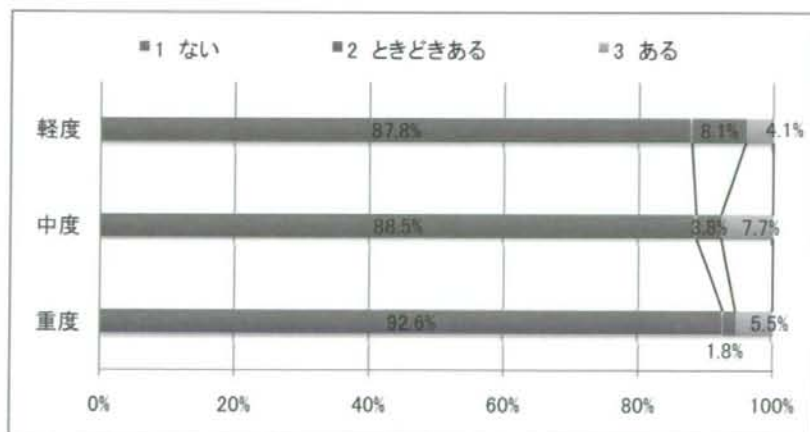


図 6-65 火元の管理

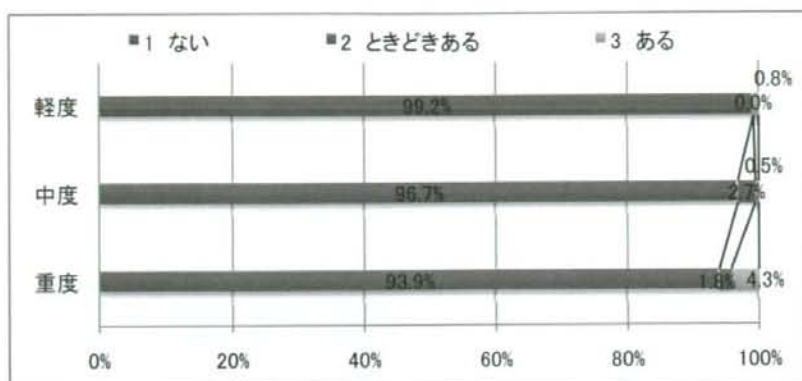


図 6-66 物や衣服の破壊

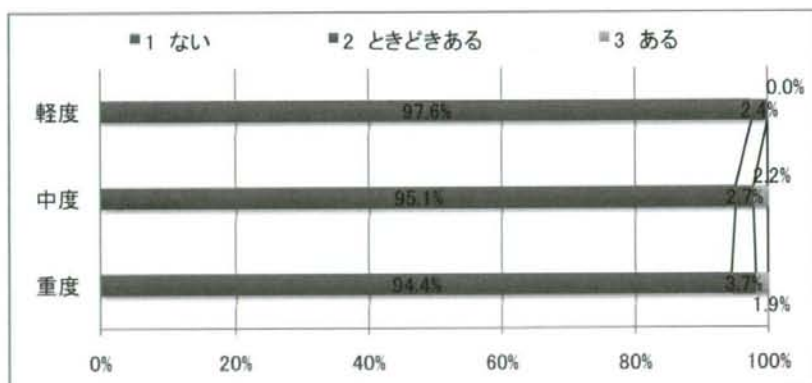


図 6-67 不潔な行為

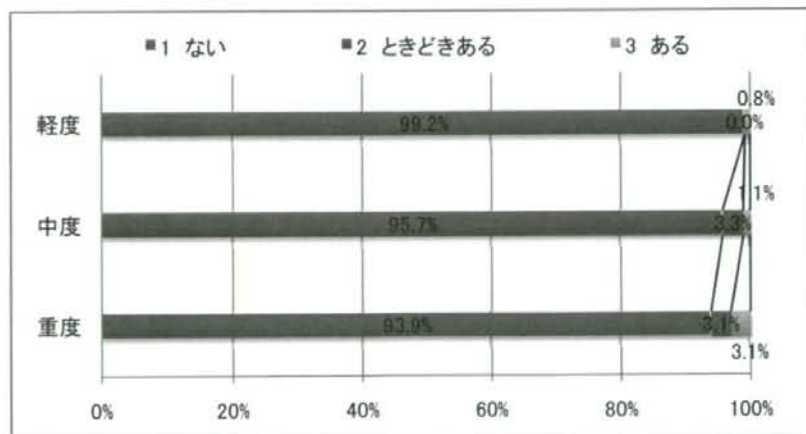


図 6-68 異食行動

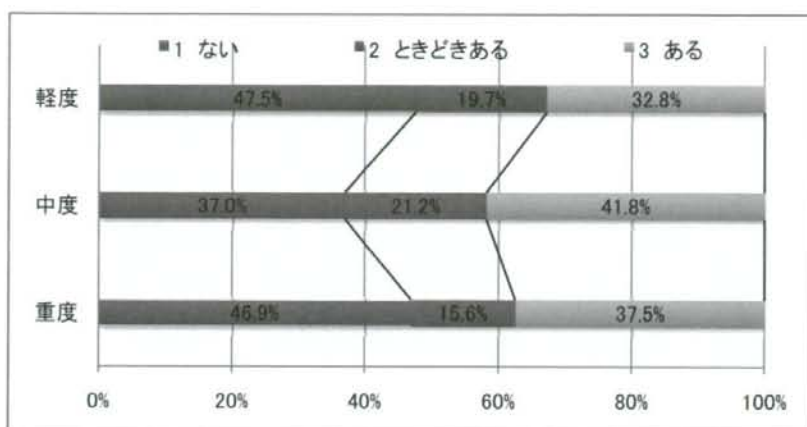


図 6-69 ひどい物忘れ

表 6-17 要介護度区分別 BPSD があると回答された割合

	軽度 (N=123)	中度 (N=184)	重度 (N=163)
昼寝	78.7%	79.0% ³⁾	92.5% ⁶⁾
情緒不安定	32.0%	46.4% ⁴⁾	32.7% ⁷⁾
介護に抵抗	23.6%	31.7% ⁴⁾	29.6%
夜中の目覚め	25.6% ¹⁾	35.9% ³⁾	28.6% ⁸⁾
昼夜逆転	14.6% ¹⁾	28.8% ³⁾	28.4% ⁸⁾
感情が不安定	24.6%	28.4% ⁴⁾	26.5% ⁹⁾
強いこだわり	28.9% ²⁾	31.9% ⁵⁾	24.1% ¹⁰⁾
閉じこもり	29.5% ²⁾	41.2% ⁵⁾	22.3% ¹¹⁾
幻視・幻聴	5.7%	18.5%	20.9%
不安定	16.4% ²⁾	26.9% ⁵⁾	19.8% ¹⁰⁾
同じ話や不快な音	22.8% ²⁾	29.3%	19.0%
停止	4.9% ²⁾	16.9% ⁴⁾	18.0% ⁸⁾
大声を出す	9.8%	14.2% ⁴⁾	16.6%
暴言や暴行	6.6%	18.5%	13.0%
落ち着きが無い	6.5%	13.7%	11.7%
寝つき	14.8% ²⁾	20.3% ⁵⁾	11.3% ⁷⁾
多動	6.6% ²⁾	16.4% ⁴⁾	9.3% ¹⁰⁾
日常動作に要時間	3.3% ²⁾	14.8% ⁴⁾	9.3% ¹⁰⁾
作話	13.8%	13.0%	9.2%

被害的	9.8%	17.4%	9.1% ⁷⁾
目的無く動き回る	9.8%	14.7%	8.0%
外出できない	15.6% ²⁾	15.8% ⁴⁾	7.5% ⁹⁾
目が離せない	4.1%	18.5%	7.4%
火元の管理	12.2%	11.5% ⁴⁾	7.4%
物や衣服の破壊	0.8%	3.3%	6.1%
異食行動	0.8%	4.3%	6.1%
不潔な行為	2.4%	4.9%	5.6% ⁷⁾
過食等	6.6% ²⁾	8.7% ⁴⁾	5.6% ¹⁰⁾
自虐	0.0% ²⁾	0.5% ⁴⁾	3.7% ¹⁰⁾
無断で収集	1.6%	8.2%	3.7%

1) は、N=121、2) は、N=122、3) は、N=181、4) は、N=183、5) は、N=182、6) は、N=164、7) は、N=160、

8) は、N=161、9) は、N=159、10) は、N=162、11) は、N=157。

※BPSD の分類

	攻撃的行動		不安と焦燥
	行動の過剰と変質		その他の諸症状
	睡眠障害		

8) 特別な医療関連

要介護度区分別に有意差があったのは、「疼痛の管理」の軽度と重度の群間、と「点滴」の中度と重度、軽度と重度、「カテーテル」の中度と重度間をのみの3項目であった。その他の項目については、軽度と中度、中度と重度、軽度と重度のどの群間においても、有意差はなかった。

要介護度区分が高くなるにしたがって、特別な医療処置の割合が高くなる傾向はないことがわかった。

表 6-18 要介護度区分別特別な医療関連項目の回答傾向

		要介護度区分						p値		
		軽度		中度		重度		軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
		N	%	N	%	N	%			
点滴	1 なし 2 あり	5 3	62.5% 37.5%	12 6	66.7% 33.3%	59 5	92.2% 7.8%	*	*	
中心静脈栄養	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	18 0	100.0% 0.0%	84 0	100.0% 0.0%			
透析	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	16 2	88.9% 11.1%	60 4	93.8% 6.3%			
ストーマ	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	17 1	94.4% 5.6%	61 3	95.3% 4.7%			
酸素療法	1 なし 2 あり	7 1	87.5% 12.5%	15 3	83.3% 16.7%	59 5	92.2% 7.8%			
レスピレーター	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	18 0	100.0% 0.0%	62 2	96.9% 3.1%			
気管切開装置	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	17 1	94.4% 5.6%	57 7	89.1% 10.9%			
疼痛の管理	1 なし 2 あり	4 4	50.0% 50.0%	15 3	83.3% 16.7%	60 3	93.8% 6.3%		**	
経管栄養	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	18 0	100.0% 0.0%	55 9	85.9% 14.1%			
モニター測定	1 なし 2 あり	7 1	87.5% 12.5%	14 4	77.8% 22.2%	56 8	87.5% 12.5%			
じょくそうの処置	1 なし 2 あり	7 1	87.5% 12.5%	14 4	77.8% 22.2%	49 15	76.6% 23.4%			
カテーテル	1 なし 2 あり	8 0	100.0% 0.0%	18 0	100.0% 0.0%	45 19	70.3% 29.7%	*		

** P<0.01 * P<0.05

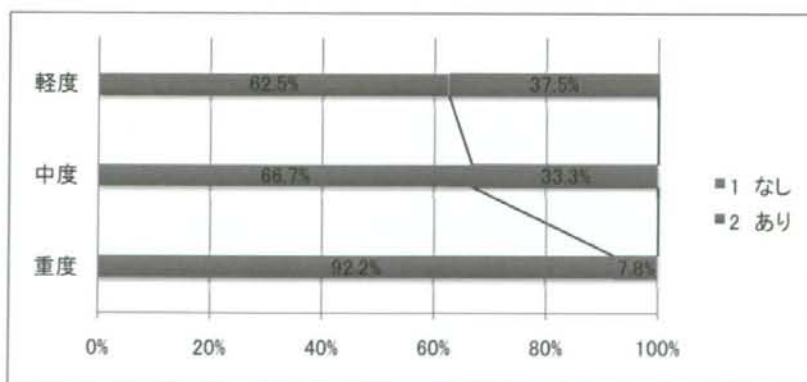


図 6-70 点滴

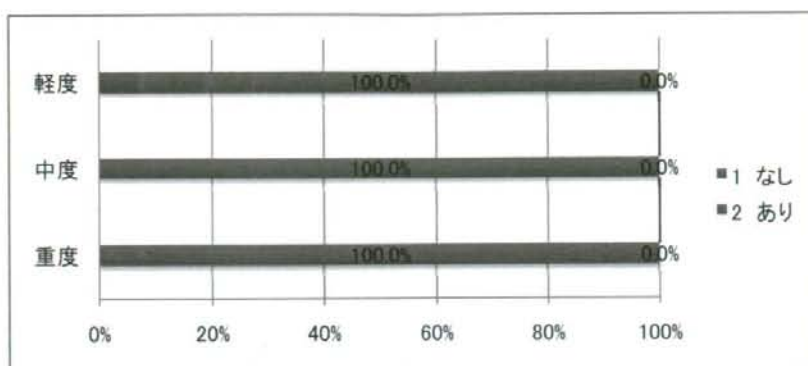


図 6-71 中心静脈栄養

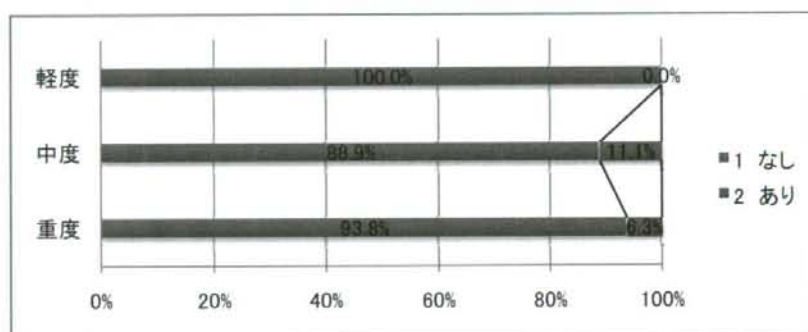


図 6-72 透析

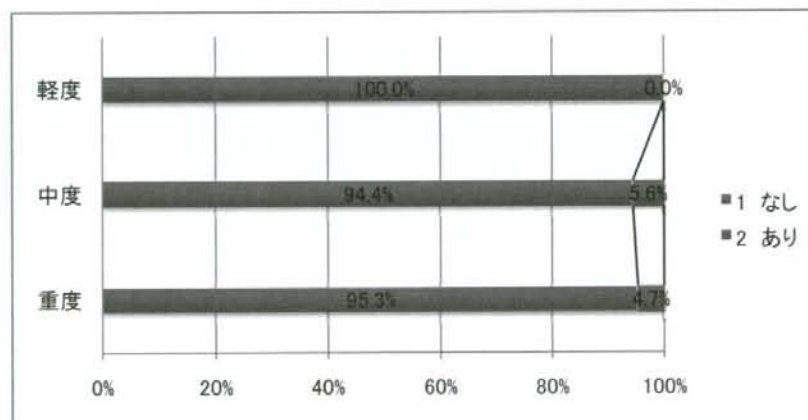


図 6-73 ストーマ

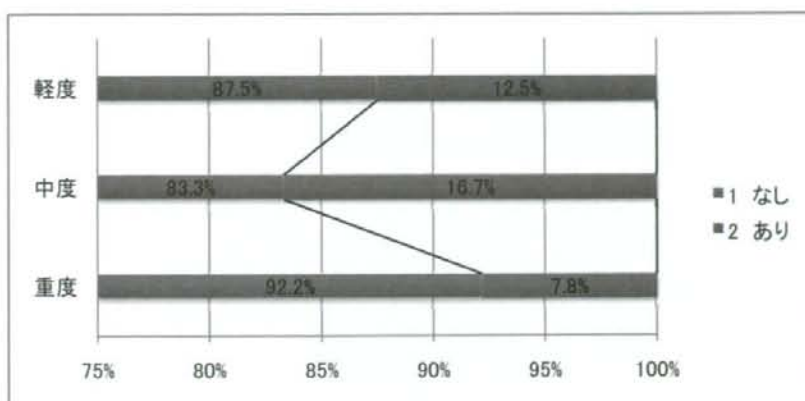


図 6-74 酸素療法

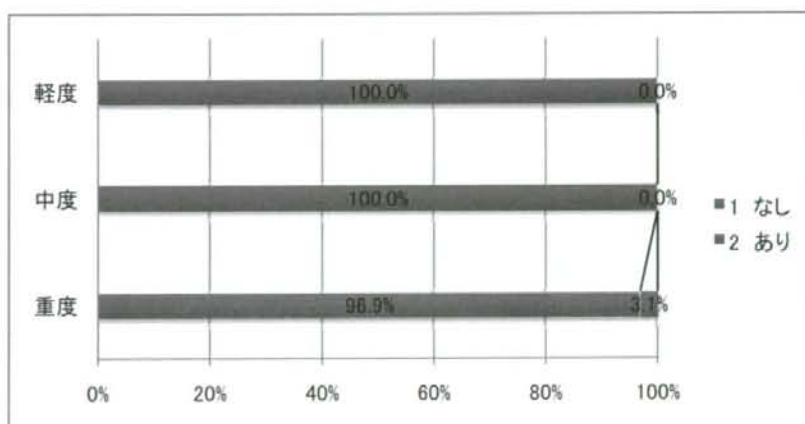


図 6-75 レスピレーター

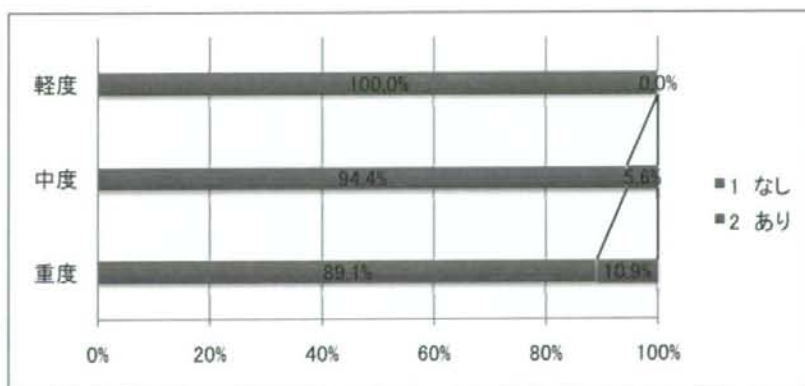


図 6-76 気管切開処置

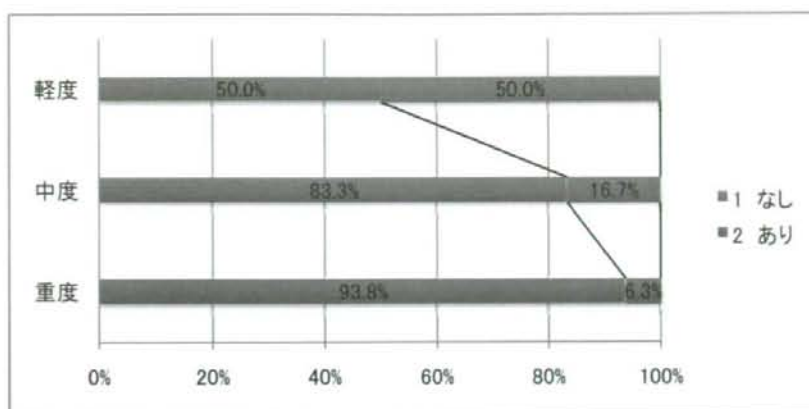


図 6-77 疼痛の管理

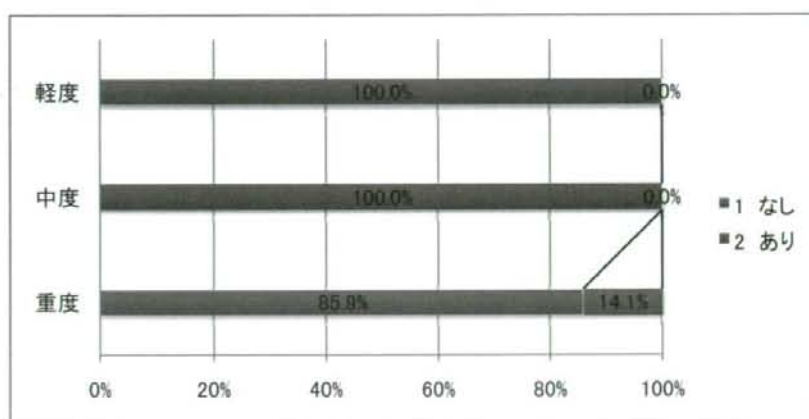


図 6-78 経管栄養

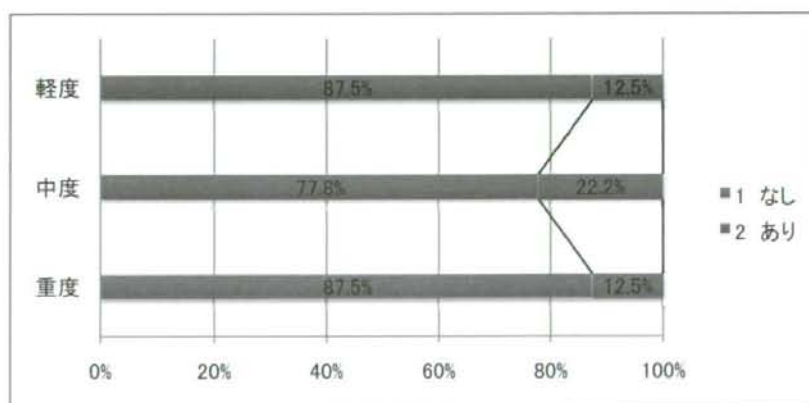


図 6-79 モニター測定

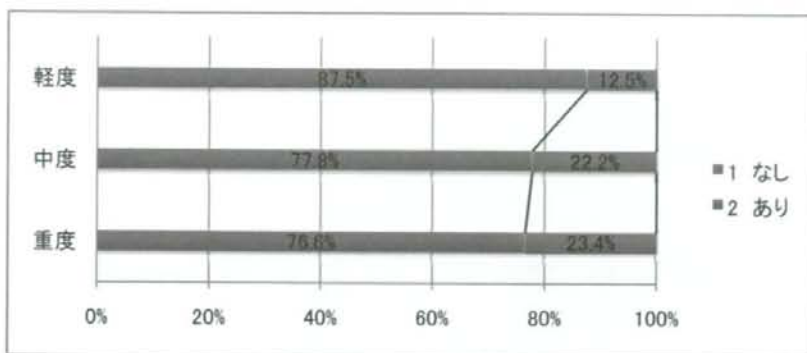


図 6-80 じょくそうの処置

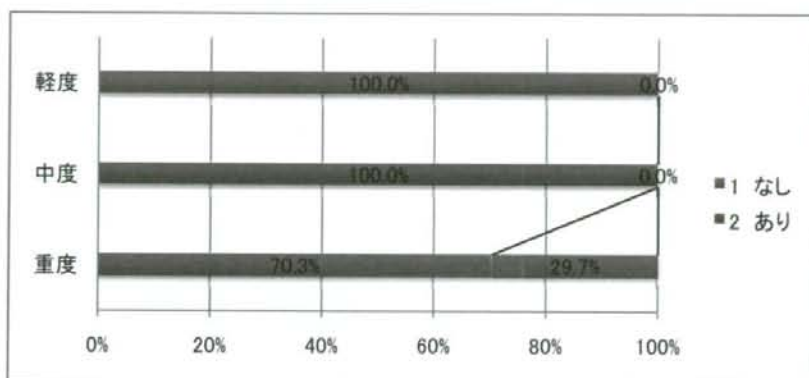


図 6-81 カテーテル

9) 寝たきり度および認知症度

要介護度区別寝たきり度および認知症度の回答傾向については、軽度と中度、中度と重度、軽度と重度のどの群間においても、有意差が見られた。

表 6-19 寝たきり度および認知症度

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度				
		N	%	N	%	N	%	軽度⇔中度	中度⇔重度	軽度⇔重度
寝たきり度	1 自立	4	3.5%	3	1.7%	0	0.0%	**	**	**
	2 J1	9	8.0%	4	2.3%	0	0.0%			
	3 J2	37	32.7%	8	4.5%	4	2.6%			
	4 A1	26	23.0%	42	23.7%	6	3.9%			
	5 A2	32	28.3%	63	35.6%	17	11.0%			
	6 B1	3	2.7%	35	19.8%	15	9.7%			
	7 B2	1	0.9%	17	9.6%	36	23.2%			
	8 C1	1	0.9%	5	2.8%	16	10.3%			
	9 C2	0	0.0%	0	0.0%	61	39.4%			
認知症度	1 自立	35	29.9%	41	23.2%	17	10.9%	**	**	**
	2 I	31	26.5%	33	18.6%	22	14.1%			
	3 IIa	23	19.7%	21	11.9%	11	7.1%			
	4 IIb	19	16.2%	36	20.3%	22	14.1%			
	5 IIIa	5	4.3%	34	19.2%	33	21.2%			
	6 IIIb	4	3.4%	7	4.0%	17	10.9%			
	7 IV	0	0.0%	4	2.3%	21	13.5%			
	8 M	0	0.0%	1	0.6%	13	8.3%			

** P<0.01 * P<0.05

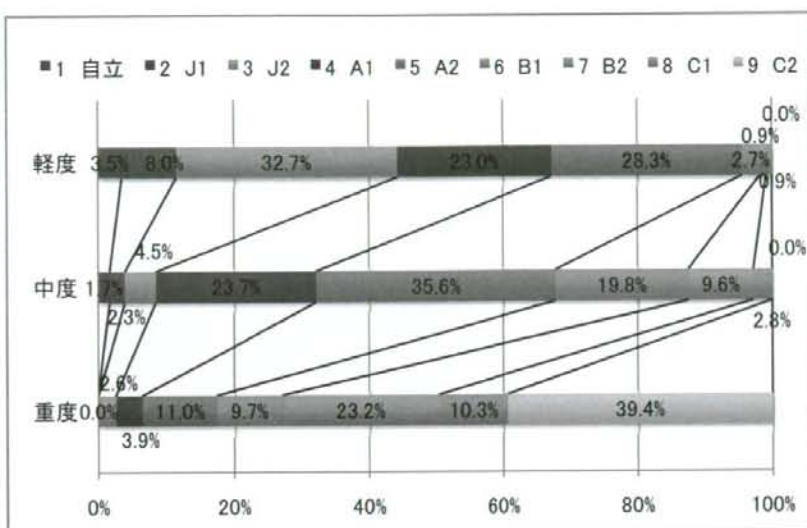


図 6-82 寝たきり度

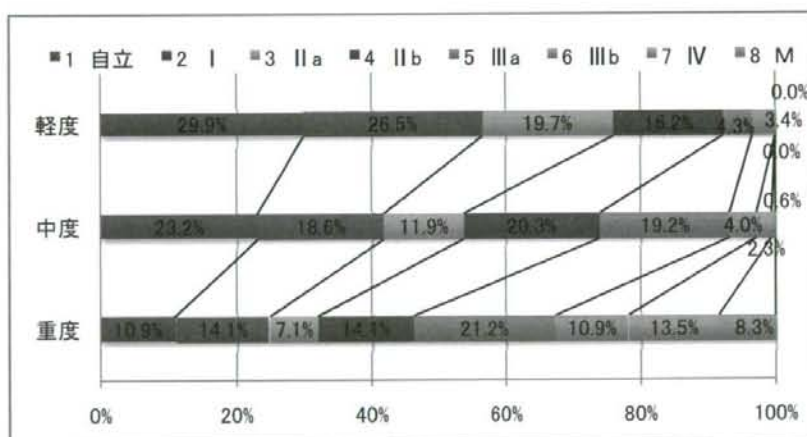


図 6-83 認知症度

10) 廃用の程度関連

要介護度区分別に、「日中の生活」は、軽度と中度、中度と重度、軽度と重度のどの群間においても、有意差が見られたが、「外出の頻度」については、軽度と中度の間には有意差が見られず、中度と重度および軽度と重度の身に有意差が見られた。「生活状況の変化」については、どの群間においても、有意差が見られなかった。

表 6-20 廃用の程度に関連する項目

		要介護度区分						介護		
		軽度		中度		重度		軽度⇨中度	中度⇨重度	軽度⇨重度
		N	%	N	%	N	%			
日中の生活	1 よく動いている	14	11.5%	11	6.0%	0	3.7%	**	**	**
	2 座っていることが多い	80	65.6%	100	54.6%	31	18.9%			
	3 横になっていることが多い	28	23.0%	72	39.3%	127	77.4%			
外出頻度	1 週1回以上	107	87.0%	150	82.0%	90	55.6%	**	**	**
	2 月1回以上	9	7.3%	18	9.8%	12	7.4%			
	3 月1回未満	7	5.7%	15	8.2%	60	37.0%			
生活状況の変化	1 ない	104	84.6%	161	89.0%	146	90.7%			
	2 ある	19	15.4%	20	11.0%	15	9.3%			

** P<0.01 * P<0.05

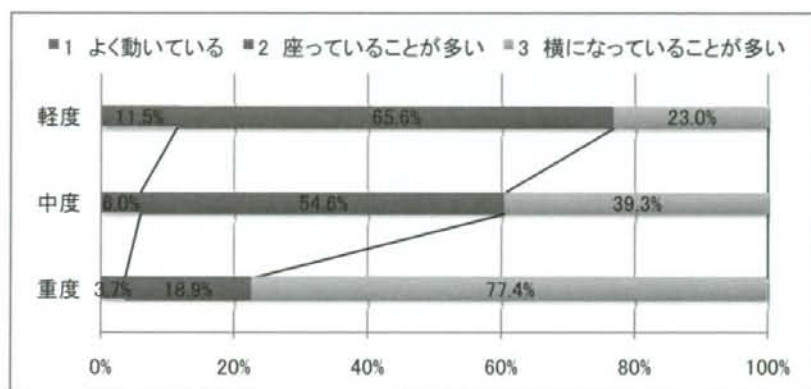


図 6-84 日中の生活

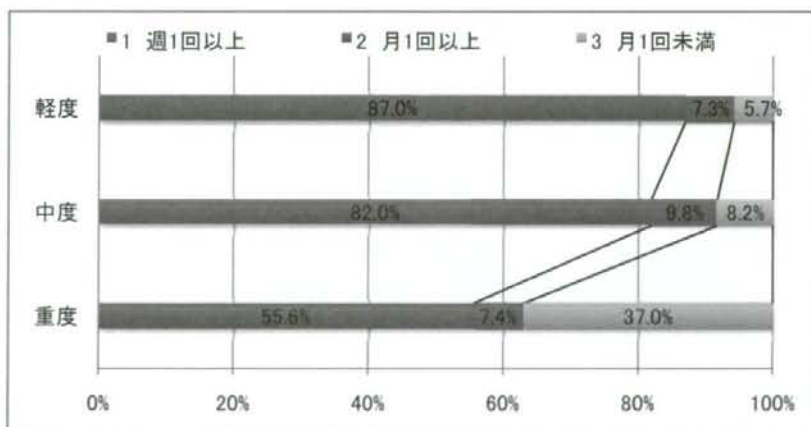


図 6-85 外出頻度

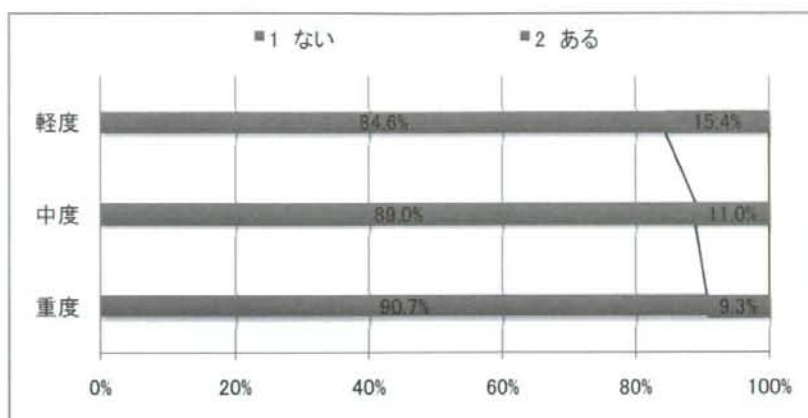


図 6-86 生活状況の変化

11) 社会生活適応に関連する項目（会話にならない、買い物、簡単な調理、自分勝手な行動、集団参加ができない）

「買い物」および「簡単な調理」については、軽度と中度、中度と重度のいずれの群間において有意差が見られた。「会話にならない」、「自分勝手な行動」は、どの群間にも有意差はなかった。また、「意味ない独り言」については、軽度と重度の間だけに有意な差があった。「集団参加ができない」については、軽度と中度の間だけに有意差が見られた。

表 6-21 要介護度別会話にならない、社会生活適応に関連する項目（買い物、簡単な調理、自分勝手な行動、集団参加ができない）の回答傾向

		要介護度区分						P値
		軽度		中度		重度		
		N	%	N	%	N	%	
会話にならない	1 ない	90	74.4%	124	68.1%	118	74.2%	
	2 まれにある	18	14.9%	23	12.6%	7	4.4%	
	3 とくどきある	7	5.8%	12	6.6%	6	3.8%	
	4 よくある	6	5.0%	23	12.6%	28	17.6%	
買い物	1 できる	24	19.7%	7	3.8%	0	0.0%**	**
	2 見守り	12	9.8%	1	0.5%	0	0.0%	
	3 一部介助	30	24.6%	27	14.7%	4	2.5%	
	4 全介助	56	45.9%	149	81.0%	158	97.5%	
簡単な調理	1 できる	25	20.5%	4	2.2%	1	0.6%**	**
	2 見守り	7	5.7%	4	2.2%	1	0.6%	
	3 一部介助	33	27.0%	18	9.8%	3	1.9%	
	4 全介助	57	46.7%	158	85.9%	157	96.9%	
自分勝手な行動	1 ない	82	67.2%	109	59.9%	110	69.2%	
	2 まれにある	15	12.3%	24	13.2%	13	8.2%	
	3 とくどきある	12	9.8%	19	10.4%	15	9.4%	
	4 よくある	13	10.7%	30	16.5%	21	13.2%	
意味の独り言	1 ない	111	91.0%	154	85.1%	124	77.5%	**
	2 まれにある	1	0.8%	6	3.3%	12	7.5%	
	3 とくどきある	3	2.5%	9	5.0%	9	5.8%	
	4 よくある	7	5.7%	12	6.6%	15	9.4%	
集団参加ができない	1 ない	98	80.3%	118	64.8%	114	72.2%**	
	2 まれにある	11	9.0%	31	17.0%	10	6.3%	
	3 とくどきある	6	4.9%	12	6.6%	5	3.2%	
	4 よくある	7	5.7%	21	11.5%	29	18.4%	

** P<0.01 * P<0.05

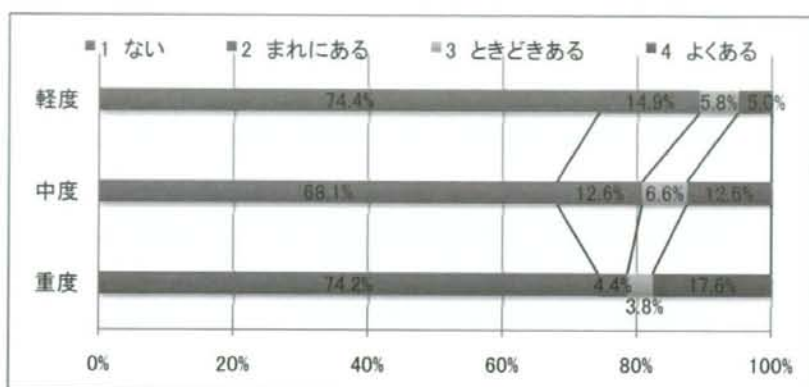


図 6-87 会話にならない

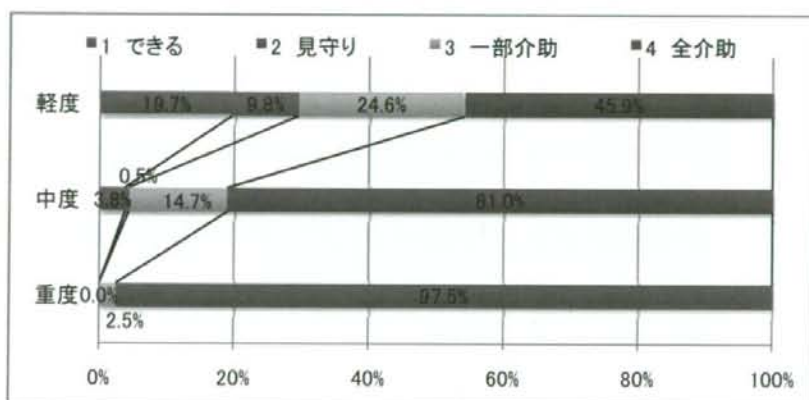


図 6-88 買い物

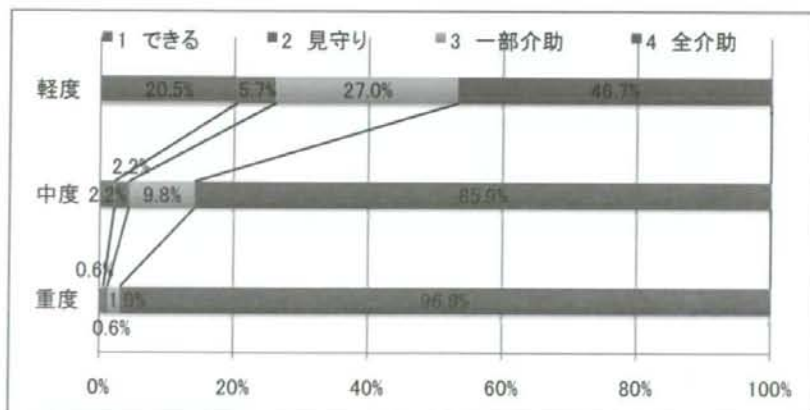


図 6-89 簡単な調理

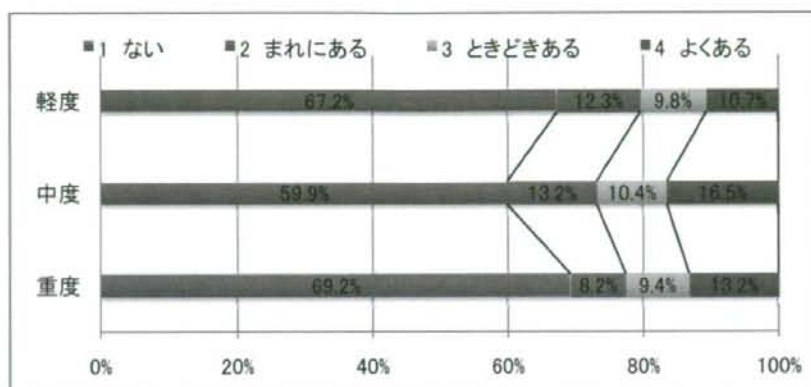


図 6-90 自分勝手な行動

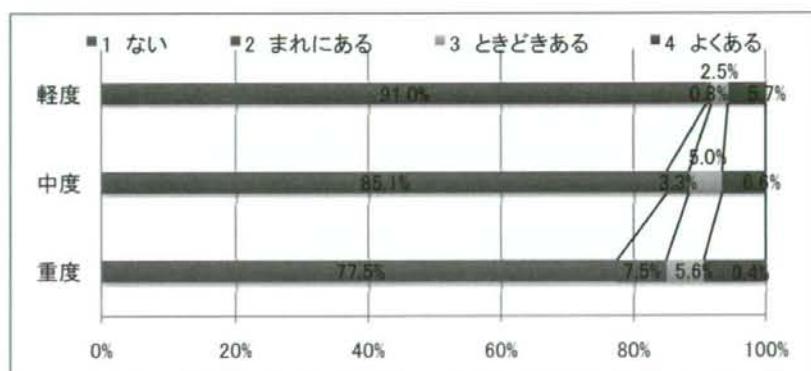


図 6-91 意味の独り言等

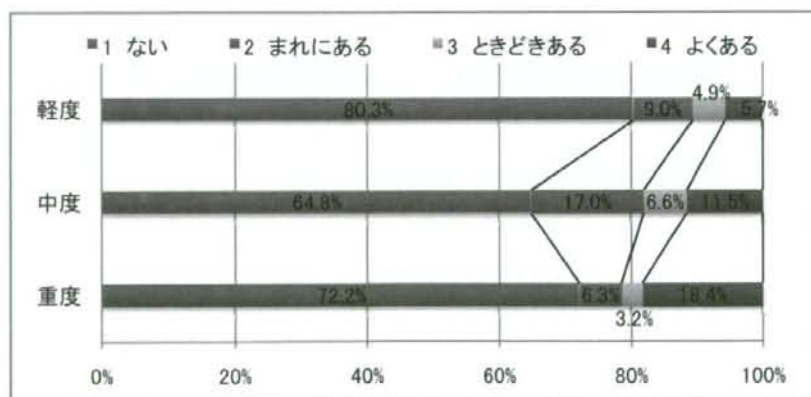


図 6-92 集団参加ができない

(3) 要介護度区分別モデル事業における回答傾向との比較

ここでは、モデル事業認定データを用いて、要介護認定に必要な84項目および会話にならない、買い物、簡単な調理、自分勝手な行動、意味のない独言、集団参加ができないの6項目を加えた90項目について、軽度（要支援1、要支援2、要介護1）、中度（要介護2、3）、重度（要介護4、5）の3群間の状態像に差異があるかについて比較を行った。

1) 麻痺・関節制限関連

麻痺・関節制限関連項目については、モデル事業認定データにおいては、すべての項目において、要介護度区分ごとに統計的に有意な差が見られた。

表 6-22 麻痺・関節制限関連項目の回答傾向（モデル事業）

		要介護度区分						P値		
		軽度		中度		重度		軽度⇄中度	中度⇄重度	軽度⇄重度
		N	%	N	%	N	%			
左上肢	1 なし	16,043	94.4%	5,836	85.7%	1,367	67.4%	**	**	**
	2 あり	945	5.6%	973	14.3%	660	32.6%			
右上肢	1 なし	16,023	94.3%	5,878	86.3%	1,380	68.1%	**	**	**
	2 あり	965	5.7%	931	13.7%	647	31.9%			
左下肢	1 なし	4,341	25.6%	905	13.3%	103	5.1%	**	**	**
	2 あり	12,647	74.4%	5,904	86.7%	1,924	94.9%			
右下肢	1 なし	4,336	25.5%	899	13.2%	105	5.2%	**	**	**
	2 あり	12,652	74.5%	5,910	86.8%	1,922	94.8%			
その他	1 なし	13,119	77.2%	4,902	72.0%	1,395	68.8%	**	**	**
	2 あり	3,869	22.8%	1,907	28.0%	632	31.2%			
肩関節	1 なし	13,960	82.2%	4,956	72.8%	1,300	64.1%	**	**	**
	2 あり	3,028	17.8%	1,853	27.2%	727	35.9%			
肘関節	1 なし	16,372	96.4%	6,208	91.2%	1,672	82.5%	**	**	**
	2 あり	816	3.6%	601	8.8%	355	17.5%			
腕関節	1 なし	15,601	91.8%	6,113	89.8%	1,593	78.6%	**	**	**
	2 あり	1,387	8.2%	696	10.2%	434	21.4%			
膝関節	1 なし	10,478	61.7%	4,295	63.1%	1,188	58.6%	*	**	**
	2 あり	6,510	38.3%	2,514	36.9%	839	41.4%			
足関節	1 なし	16,126	94.9%	6,022	88.4%	1,666	82.2%	**	**	**
	2 あり	862	5.1%	787	11.6%	361	17.8%			
その他	1 なし	15,178	89.3%	5,773	84.8%	1,641	81.0%	**	**	**
	2 あり	1,810	10.7%	1,036	15.2%	386	19.0%			

** P<0.01 * P<0.05

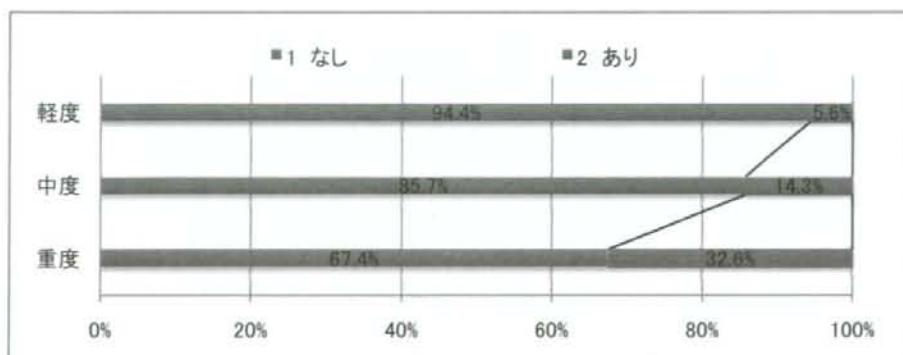


図 6-93 麻痺_左上肢

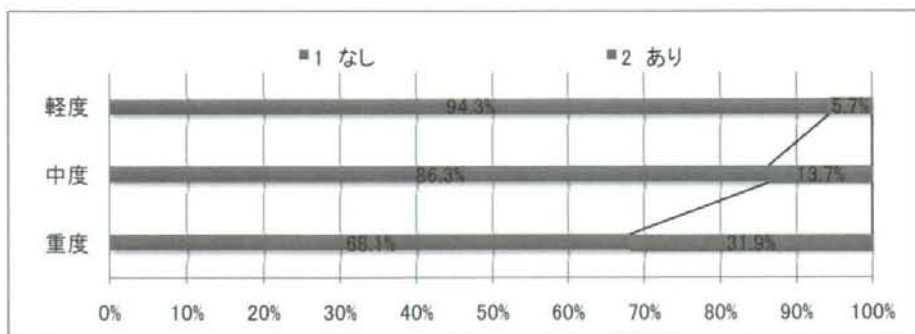


図 6-94 麻痺_右上肢

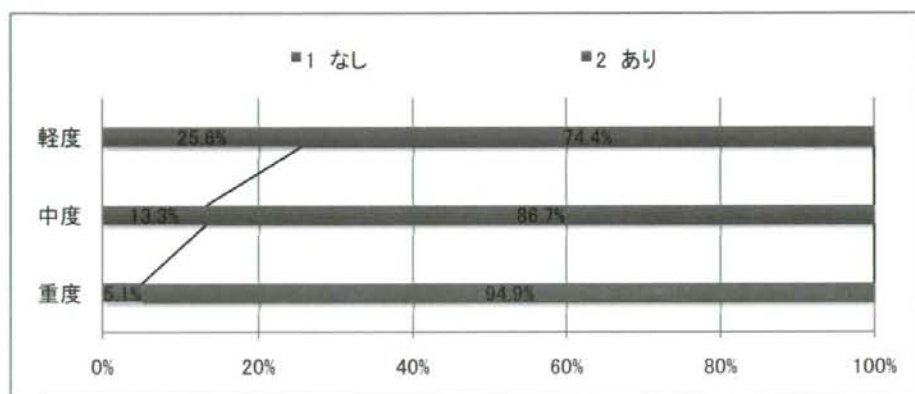


図 6-95 麻痺_左下肢

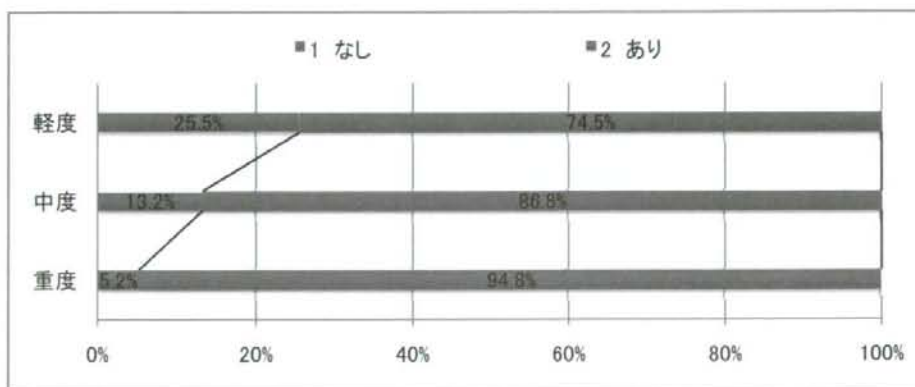


図 6-96 麻痺_右下肢

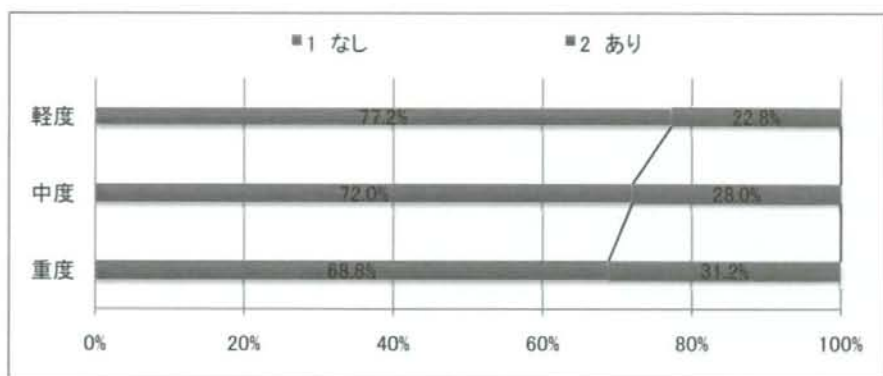


図 6-97 麻痺_その他

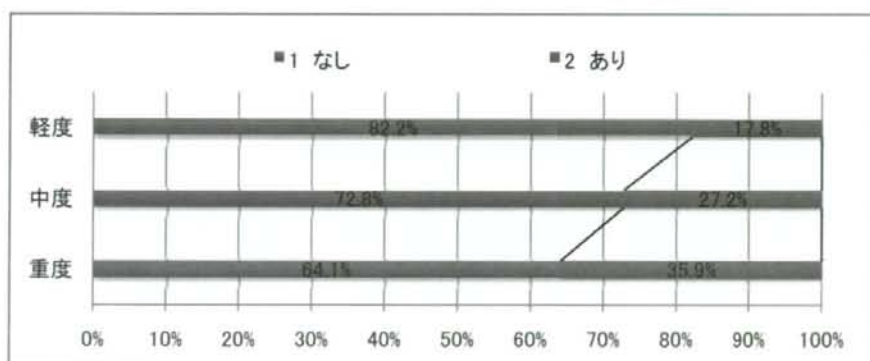


図 6-98 関節制限_肩関節

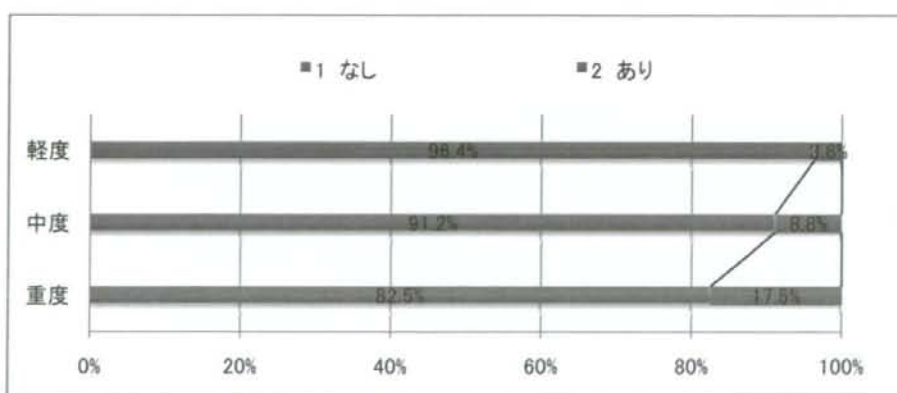


図 6-99 関節制限_肘関節

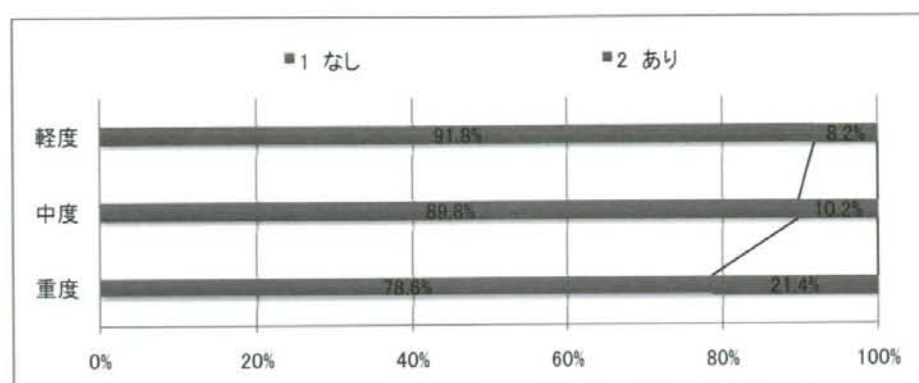


図 6-100 関節制限_股関節

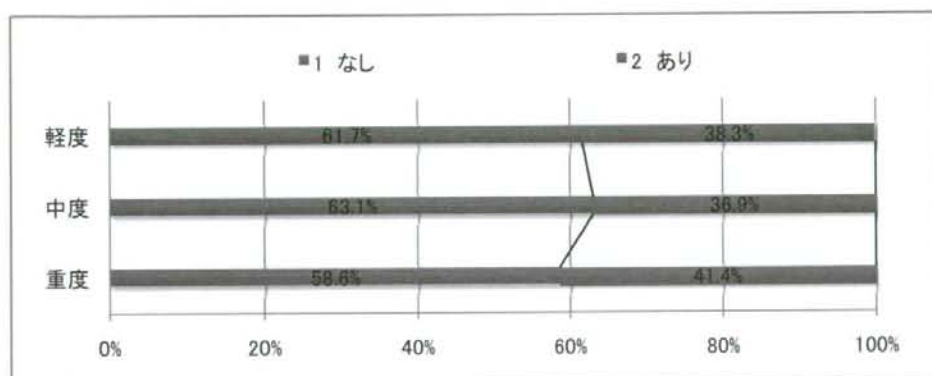


図 6-101 関節制限_膝関節

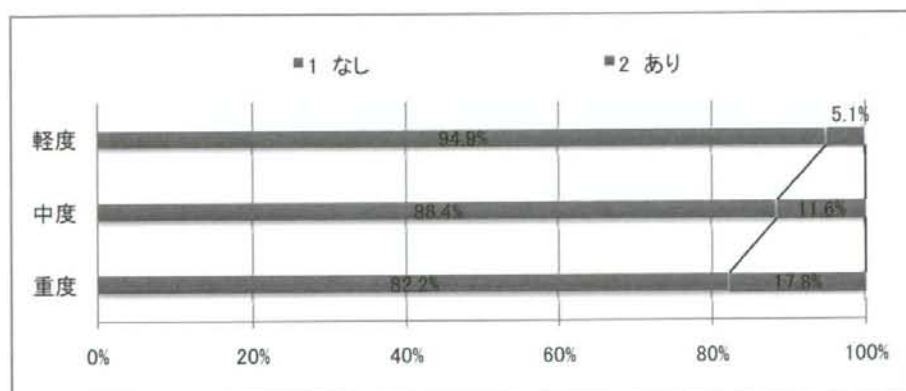


図 6-102 関節制限_足関節